

西田小学校・同窓会 会報

発行者 西田小学校同窓会

編集責任者・田村晋一郎(二期生)



2007 年に撮影された西田小学校(赤丸印)周辺の航空写真です。上方が北です。現在、すぐ北側の松溪中学と北東の荻窪団地では建替え工事が進行中です。画面左に南北に走るのが環状 8 号線で、画面上部中央が荻窪駅周辺となります。

あと 3 年後の 2012 年には西田は創立 70 周年を迎えます。今年の 3 月の卒業期までで 10,711 名の卒業生がこの学び舎を巣立っていった事になります(学校の記録)。

今も残る旧荻外荘の南下から、荻窪団地辺りの善福寺川左岸一帯がタンボだった時代を知る年代に始まり、このような市街地となった今年の 66 回卒業生の年代までが育った町です。

同窓会も少しずつですが整備されてきました。今年は 9 名の新しい世話人が誕生しました。皆さん 10 期から 19 期までの卒業生です。2012 年の創立 70 周年の行事の時に、一度学校を訪ねてみませんか。同窓会では記念行事の日に合わせて荻窪辺りで同期・同級会をセットしていただくよう各同期・同級会に働きかけることを予定しています。

【学校だより】

■ 3月6日、学校の体育館でプロの狂言師による「狂言ワークショップ」が行われ、5～6年生が参加しました。写真は題目「柿山伏」の一場面です。



この会を西田小で実現されたのは永福町にお住まいの宮崎頼さんです。（「NPO 杉並で能を楽しむ会」の重鎮）。同窓会の土屋会長が参加しているある団体の会の新年会で、メンバーの同氏から偶々この話が出て、榎本校長先生に繋いだ処、早速に実現したものです。

（左）公演後、お礼に立った代表生徒の、「初めて

狂言という古典芸能に接し、興味がわいた。今度は劇場に足を運び、もう少し勉強してみたい」との挨拶に、関係者も感激されていました。



■ 西田小・北校舎屋上の芝生

この工事を担当されたのは、偶然にも西田小の卒業生とのこと。左側のベンチは学校への思いで、寄付されたものだそうです。左の写真の装置で給水は自動的に行われます



■ 2009 年度運動会



今年も5月23日に行われました。太鼓とテントも活躍していました。この二つは同窓会も参加した学校創立50周年と60周年の記念贈呈品です。3年2組の内田悠子さんが描いた絵でご紹介しました。

【 最近の同窓会活動のあらまし 】

副会長 渋谷好重(8期生)

(1) 7月26日の世話人会で、新たに以下の9名の世話人就任が決定しました

河西宏和(10期) 中村康(11期)
吉田浩二(12期) 杉原素子(12期)
横川和則(17期) 平間美民(18期)
安藤公一(19期) 栗田恒雄(19期)
宇田川政幸(19期)

皆さんは総て卒業年次で10期から19期までの方々です。世話人会は総会に代わる同窓会の最高の意思決定機関です。ちなみに従来からの世話人は以下の15名の方々です。

志甫哲夫(1期) 和田須美子(2期)
北岡靖博(3期) 黒田陽太郎(4期)
荻野弘子(5期) 新藤一郎(6期)
宇田川一浩(7期) 石田春夫(8期)
矢代捷(9期) 志田設子(11期) 中澤一郎(13期) 宇田川茂之(15期)
矢代戢(16期) 鐘 俊幸(18期) 上野万佐子(21期)

理事会では以上24名の皆さんのご意見を伺いながら、今後の施策を進めていきます。

(2) 本年度の活動計画

- ・昨年度に引き続き、本年度に於いても、更に10期以降の世話人の増員を図ります。
 - ・本年より、新世話人のご協力も得て、新しい理事の増員を2年計画で進めます。
 - ・地元における事業として、同窓会主催の「近隣の歴史ばなし」と題する講座を始めます。
 - ・2012年の学校70周年記念事業に向けて100万円募金を今年度も継続します。
- 以上、皆さんのご協力をお願い申し上げます。



7月26日の世話人会の一コマ。この後、懇親会を行った

【 会長ご挨拶 】

土屋忠夫 (3期生)

4人目の会長に指名されて2年半が経ち、今、5年任期の中間点にいます。色々摸索しながらここまで来ましたが、活動を支持して下さる方が少しずつ増える傾向にあり、2012年の西田小の創立70周年の時まで、残り半分を頑張ろうと思っています。

会長をやってみて、小学校時代に身に着いたことが私自身の土台に残っていることに気付きました。会長として、毎年の卒業式、入学式、運動会などに招かれますが、学校、先生、生徒と身近に接する時、特にこれを実感します。それに、西田小は特別なのかも知れませんが、小学校教育は向上傾向に乗っていると感じられて、いつも気が休まります。

自分の3人の子供たちは、荻窪に家がありながら、西田小に通わせられず、米国とドイ

ツで育てる結果となり、商社マンとしての計 11 年の海外生活で子供の教育にはずいぶん苦
勞をしました。

66 歳まで会社で働いて、今 76 歳になりました。引退後は学校時代、特に苦手だった「日
本史」に焦点を絞ることにして、荻窪辺りに残る歴史ばなしを軸として掘り下げること
に熱中しています。歴史の授業を受けに行ったり、関係する現場を訪ねたり、歩く事も多
いので、少なくとも健康維持には効果が出ているようです。少しの資料から深く掘り下
げると、だんだん全体像が見えてくる作業は探偵ごっこにも似て、はまっています。時々
は、仲間に話す会を開くことなどもやっています。今回、同窓会の地元行事として「近
隣の歴史ばなし」の講座を担当する事になり、一層の励みになりそうです。よろしくお願
いします。

私の一番のふるさととは荻窪、二番が西田小 5～6 年時の集団疎開地の長野県上田市周辺、
三番がニューヨーク、四番がドイツ・デュッセルドルフ、五番がいつも夏休みを過ごした
両親の郷の山梨県だと思っています。結局、昨今は海外は諦めて、荻窪周辺、長野県、山
梨県を歩き回る事になっています。

自分が足跡を残したところ、誰もが熟年になって振りかえった時、そこに小学校の同窓
会が続いているくらいが理想なのでしょうか。そんなわけで、あとしばらく、西田小・同
窓会に注力し、3 年先には次の会長に無事にバトンタッチができればよいと思っています。

【 榎本勉校長先生 インタビュー 】

9 月 15 日、校長室に榎本校長先生をお訪ねしました。
先生は桃井第二に奉職された経験もお持ちで、共通の
話題も多く、色々なお話を伺うことができました。

児童数減少による学校統合などが話題となる昨今、
同窓生の関心事である児童数については、杉並区の区
立小学校 45 校の中で在校生 500 名以上の学校が 11
校ある中(H21 年度のデータ)、西田小は 553 名(本年 9
月 1 日現在)で杉並区の中では生徒数の多い方の学校
との事です。学校の基本姿勢「考える子、助け合う子、
たくましい子」育成の精神が浸透しつつあることが、こ
の結果に繋がっていると感じました。

嬉しい話としては、西田小チームが地区の野球大会において、高学年と低学年の部両方で優
勝したことがあげられます。またサッカー部やバスケット部もそれぞれ活躍しているとの事です。

学校には、同窓会にも関連する資料が保存されている事もわかりました。幸にも、これらの資料
の今後の活用についても道が開けました。ほかに、学校と同窓会のあり方や、2012 年の学校創
立 70 周年記念行事についての意見交換も行うことができました。(田村)



榎本校長先生(左)。(右) 田村理事(2 期生: 会報担当)

【新世話人からのメッセージ】

■ 宇田川政幸(19期4組)

2009年度の世話人会で推挙され、世話人に就任しました。よろしくお願いします。

平成5年に行われた同窓会・総会では、同期の参加者はほんの数名しかいなかったのに、当日の夕刻から開催した同期会には30数名が集まり、同窓会に対する関心の無さに大変残念な思いをした覚えがあります。私たち19期生は、今年度中に還暦を迎え、比較的自由な時間を持てる年代に入る頃ですので、同窓会にも大いに関心を持ってもらうよう、皆に働きかけたいと思います。

■ 栗田恒雄(19期2組)

来年還暦、小学校を卒業し何年になるか即座に答えるのが難しい程の歳になりました。

現在、歯科医師として、五反田にて三十余年治療に携わっております。仕事を通し、過去を振り返ってみると、個人経営というものは、当人の個性が重要であることを強く認識させられています。個性を身につけることが、人生には不可欠であり、人格は学校時代の過ごし方が大きく関わっています。学校時代の様々な思い出を巡らしてみるとお解り頂けるのではないのでしょうか。

その学校時代の中でも、小学校は自らの意志で選んだ訳ではなく、不思議な縁が働いている点でも特異な時代であり、同じ学舎にて時を過ごした人々とは、見えない何かで結ばれているのかもしれません。

このようなことから、小学校の同窓会という組織は、過去の思い出に浸るばかりでなく、次世代の子供達に何等かの形で援助出来る組織として機能し、更には、同窓の方々が参加協力頂けるような運営となりますよう、お手伝い出来ればと思っています。

【会員寄稿1】

● 或る音楽便り

志甫哲夫(一期生)

この四月、(西田小)六期生の川元千明(旧姓矢代)さんが、浜離宮朝日ホールにおいて、ソプラノ・リサイタルを催した。歳を言っては失礼ながら、彼女は古希を過ぎても奇跡の美声を保つ現役歌手なのだ。その川元さんにして、昨年夏フランスはニースの国立音楽院に短期留学し、その表現力に磨きをかけて来た。このフランス歌曲中心のリサイタルでは、その成果が充分に窺われた。果たして「音楽の友」7月号は、高い評価記事を書いた。他方、このリサイタル・プログラム末ページの、彼女のエッセーが興味深い。その内、ニースでのレッスンの一こまを、かいつまんでご照会しよう。



長い伝統文化が育んだ西欧音楽に憧れて集まる各民族は、日本人に限らず何がしかの引け目と恐れを内在させている。ところが受け入れ側の先生方は、揃って立派な肩書にもかかわらず優

しい。人間としての懐が深くて温かい。私も怯え組みの一人ではあるが、アジア人の身で近代フランス音楽が大好き、だからフランス作品を抱えて勉強に来た。

ジャン先生がドビッシェー歌曲の前奏を弾き始めた。「それは憔悴した恍惚、それは熱の果ての疲れ……総ての森の身震い、そよ風の抱擁の中で……」

歌い終わると三人の先生が揃って「トゥレビアン！」(たいへん良い)と大声を挙げた。「表現力がすばらしい、が日本での先生は誰かね」「東京芸大の浅野」と言い掛けた途端「おゝ千鶴子、私の親友！」と言ったかと思うと、ヌバル先生の腕が私に巻きついた。まるで娘に出遭ったかのように。私は恩師への感謝で胸がいっぱいに成った。(08年7月24日)

(筆者註) 浅野千鶴子(1904-1991) フランス及び日本の歌曲を中心に演奏活動。また東京芸大の教授として多くの後進を育てたソプラノ歌手。勲三等宝冠章受章。

【会員寄稿 2】

● 今も青桐会は続く 河西宏和 (10期生)

1950年4月、10歳だった私は山梨県の疎開先から西田小学校に転校した。そのとき出合ったのが岸上修先生だった。先生は当時、高等師範学校を卒業して間もない青年で、4年生から6年生までの3年間、クラスの担当をしてくださった。

校舎は戦火の焼け跡が残り、一部を新築したものの、疎開先からの転校生が相次いだため教室が不足した。40人の生徒は校庭の一角に焼け残った青桐(あおぎり)が林立する下に、木製の大きなテーブルと長いすを数組設置し、岸上先生の授業を受けた。

人呼んで青桐教室。先生からは音楽と家庭科以外の全ての科目を習ったが、特に熱がこもっていたのが放課後のスポーツ指導だった。女子はドッジボールとキックボール、男子はサッカーと決まっていた。

小学校5年生の時には先生が監督のもと、都内の4校で対抗戦をした。初戦が準決勝だったが、残念ながら初戦で敗退。実はその試合会場となったのが、現在ではサッカーの日本代表選手らが駆け回る国立競技場。当時は芝生などなく赤土を踏みしめた。

年一回、青桐会と名付けたクラス会で岸上先生らと集う。国立競技場での準決勝の試合を戦った思い出など話は尽きない。

本稿は2004年12月16日に日本経済新聞のコラム「交遊録」に掲載された文章を、許可を得て転記させて頂いたものです。河西さんは横浜にお住まいで、本年7月より同窓会の世話人に就任されました。小学校への思いは、担任の先生との思い出の大きさにも拠るようです。(編集子註)



向かって左が筆者。右は双子の弟の河西啓次氏。勿論後は岸上先生。

【新世話人紹介】 平間美民氏（18 期） 写真左側。
平間さんは荻窪名所の一つ「西郊ロッキング」のご主人です。今回、
世話人に就任されました。永年、地元を見てこられた同氏から、
色々学べると期待しています。 （写真右側：土屋・同窓会会長）



【 会員だより 】 宇田川政幸氏（19 期 4 組）

同窓会のホームページを初めて拝見。「同窓会会員・恩師の近況」
の No.36 に古畑由美子さんのメッセージが載っていました。彼女は私の同級生で、当時としては少
数派の私立中学進学者でした。それ以来、音信不通になっているので、名前を見て驚いた次第で
す。事務局で連絡先が判れば教えて下さい。

（事務局より：古畑さんからは過去何度か連絡を頂戴していました。松戸市の住所を宇田川さん
にお知らせした処、後刻宇田川さんより、連絡がついたとお礼の連絡がありました。）

【 同期・同級会報告 】

■ 2 期会（2 クラス：女子組、男子組）

2009 年 4 月 11 日、荻窪の「西郊ロッキング」で開催。
10 名参加。畳の座敷で日本庭園を眺めながら、午
後のひと時をゆっくり過ごしました。77 歳になり、集
まれるメンバーも減ってきています。次回の幹事は
佐久間俊治・詫間博信君のご両人です。



■ 3 期会（2 クラス：女子組、男子組）

2009 年も 4 月 8 日に参宮橋の住友化学の寮に 16
名が集まり歓談。皆、歳はとりましたが、やは
り小学校仲間はいいものです。毎年、幹事の石
塚治臣君のお陰で会が続いています。感謝。



■ 17 期 同期会

同期会結成の話が持ち上がっています。2010 年 3 月が卒業 50 周年に当たるのを機会に、3 月 27
日（土）午後 2 時から「かふえ&ほーる with 遊」で開催される予定です。

幹事：田辺恵一（メール withyou201@m8.gyao.ne.jp。携帯 080-5099-0611）

【Ⅰ】甲武鉄道（現在のJR中央線）のもろもろ話

荻窪駅は明治 24 年に開業しました。甲武鉄道が開通して 2 年後の事です。鉄道開設当時、国の財政は逼迫し、近代化のために輸出を拡大し外貨を得ることが急務でした。このため国は、鉄道網を作り横浜港から生糸を輸出し外貨を得る事を優先課題としていました。普通の郷土史では一地域の利益を優先する勢力とそれに利害が対立する勢力がぶつかる構図で語られる事が多いのですが、この辺の事情を紐解いてゆくと、明治時代の側面が見えてきます。想像外の話が沢山あって楽しんで頂けるとと思います。

【Ⅱ】近隣の合戦ばなし

鎌倉時代が終わり、1,300 年代から 1,500 年代、この地方を治めた上杉氏から後北条氏らまでの盛衰の歴史を紐解きます。数多く存在した武蔵の土豪が、時々勇猛果敢な家来として利用されたことは知られていますが、大きな歴史の流れに翻弄され、その度ごとに、衰退していきました。そんな所に注目して、何回かに分けて話を進めます。

- ①武蔵平一揆の乱 (1367 年) (地元の実力者、河越氏が衰退します)
- ①上杉禅秀の乱 (1416 年) (近所の田端神社の創始は品川氏の家来であった良影と言われています。品川氏も上杉禅秀の乱で戦い、その後滅びて、良影がこの地に移り住んで土着し、田端神社の前身である北野神社を創建したという話が残っています。)
- ②石神井城の戦 (1477 年) (近くの石神井で、太田道灌と豊島氏が戦いました)
- ③深大寺城と河越夜戦 (1545 年) (関東の支配者上杉氏が後北条氏に押されて、衰退しました。後、上杉氏は新潟で名を挙げます。)
- ④三増峠の戦 (1569 年) (永禄年中に、近所の大宮八幡宮が焼き討ちに遭いました。焼いたのは越後上杉軍と言っていますが、甲斐の武田信玄軍と考えることもできます。三増峠は相模湖の東、町田市の近くにありますが)
- ⑤八王子城の戦 (1590 年) (後北条氏が、豊臣秀吉軍により滅ばされます)

【Ⅲ】荻窪駅周辺の昔ばなし

・・・一連の話の中で随所に触れる事にします。荻窪周辺の町は少し昔に遡ると結構話題が豊富な町なのです。まわりの方、特にお子さんにも伝えて頂きたいのです。

■ 講師の紹介

西田小学校を昭和 21 年 3 月卒業 (3 期生)。都立 10 中、西校、慶大を経て、三菱商事入社。海外生活：米国、独国にて合計 11 年経験。引退後、「近隣の歴史ばなし」探索に 10 年。現在 76 歳。 西田小・同窓会会長。 連絡先 tadao-t@taupe.plala.or.jp

21期:佐藤素子、前垣内洋子、上野万佐子

22期:上田みどり、都築多英子

23期:大石紀子

24期:清水信昭、飯島正之、斉藤勲

25期:曾根佳彦、畑幸江、東勇一

27期:小玉陽一

20-29期合計 15名

30-63期(まとめて記載)

大橋康江(33期)、唐沢 聰(37期)、早坂義弘(38期)、渡辺浩平(41期)、岡本朋祐(44期)

池谷陸(56期)、渡辺彩(57期)、吉田祥平(58期)、斉藤一希(62期)、岡田裕紀子(62期)、平島弘隆(63期)、

村上隼斗(63期)

30-63期合計 12名

卒業期不明:宮崎友二(期・不明)、宮崎英生(期・不明)

期不明者 2名

1-63期 総合計:244名

■訃報

学校初期の濱真喜男先生が7月31日、娘さんとお孫さんに看取られ、92歳で逝去されました。小金井の教会の葬送式に参列しお別れをしました。(報告者:土屋)

■荻窪ニュース

- ・荻窪団地の建替え工事が始まりました。
- ・桃井第二小では創立80周年記念行事を11月8日に行うそうです。

■編集後記

- ・1期の志甫さん、10期の志村(旧姓:山口)さんから投稿を頂き、会報にアクセントがつけました。有難うございました。
- ・今回から会報は原則として維持会員のみに郵送することになりました。その他の会員の方はフッターで表示のホームページでご覧になれます。2008年会報は会の運営面と維持会員の動静を特集する形としました。同窓会の意図するところを汲み取って頂ければ幸いです。
- ・平間さんの「西郊ロジック」のご利用を是非ともご検討下さい。